

大学における障害学生受け入れの現状 ～2021調査より受験編～

殿岡 翼 殿岡 栄子

- ・全国障害学生支援センターでは2021年7月から12月まで「大学における障害学生の受け入れ状況に関する調査2021」を実施しました。以下、本調査または2021調査と略します。今回は本調査結果より、障害学生の在籍状況・受験状況を中心に掲載します。
- ・直近3回の調査実施状況です。

略称	正式名称	開始日	終了日	掲載書籍
2022調査 次回調査	大学における障害学生の受け入れ状況に関する調査2022	2022年6月 予定	2021年10月 予定	2023年1月に発行予定
2021調査 本調査	大学における障害学生の受け入れ状況に関する調査2021	2021年7月	2021年12月	大学案内2023障害者版
2020調査 前回調査	大学における障害学生の受け入れ状況に関する調査2020	2020年7月	2020年12月	大学案内2021障害者版

1 調査回答状況について

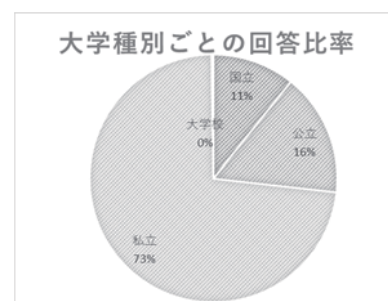
- ・2021調査の結果、調査対象大学 816校（大学 806校・大学校 10校）に対し、回答数は381校で、回答率は47%でした。過去13回実施してきた調査の中で3番目に低い回答率で、半数に満たない状況でした。ここ数年、調査の回答率が半数に満たない状況が続いています。回答率が向上するよう取り組んでいきます。また2022年度も継続して調査が予定されております。今後も継続した調査・出版・情報提供の実施に向けて取り組んでまいります。
- ・今回は回答大学が9校増加し、回答率はほぼ横ばいでした。
 - ※回答率とは、ある項目の回答数を回答大学数で割った数（率・%）です。
 - ※前回比とは、前回と今回の回答率の差（ポイント・pt）です。
 - ※表中の▲は「マイナス」の意味です。
- ・本調査は大学の総意としての回答を求めており、途中まで回答を入力していても大学の総意（決裁）が取れず、最終的な回答に至らなかった大学もあります。このような大学や学生募集停止となった大学は、回答数には含まれておりません。

◆大学種別ごとの回答状況

- ・大学種別ごとでは前回調査と同様に公立大学の回答率ももっとも高く、63%でした。
- ・国公の回答率が上昇したことは評価できると思います。

種別	調査対象数	回答数	回答率%	前回比
大学①	806	380	47%	1pt
国立	86	41	48%	3pt
公立	97	61	63%	▲1pt
私立	623	278	45%	1pt
大学校②	10	1	10%	0pt
合計(①+②)	816	381	47%	1pt

参考：前回調査（2020調査） 調査対象数(811) 回答数(372)
回答率(46%)

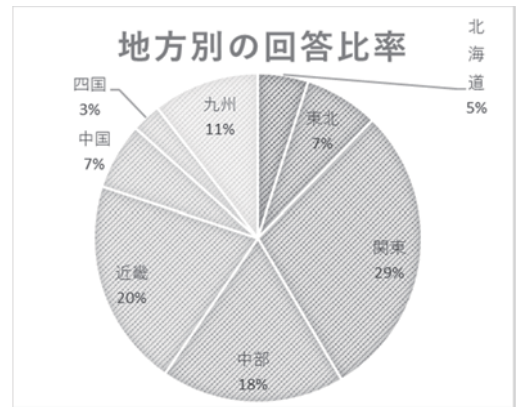


この文章で紹介しているデータのほとんどの項目は、大学案内障害者版 Web情報サービスにて公開しています。このサービスを利用すると、各項目にどこの大学が回答しているか分かります。お申し込みは、右のQRコードからアクセスしてください。



◆地方別の回答状況

地方	調査数	回答数	回答率%	前回比
北海道	37	19	51%	2pt
東北	51	28	55%	4pt
関東	272	111	41%	0pt
中部	144	69	48%	1pt
近畿	160	78	49%	1pt
中国	54	25	46%	1pt
四国	18	11	61%	0pt
九州沖縄	80	40	50%	2pt



・地方別の回答率は、四国地方がもっとも高く、東北、北海道と続きます。

・前回比では東北地方がもっとも伸びており、北海道、九州地方と続きます。

2 在籍状況について

- ・障害学生の在籍がある大学は301校に達し、回答数の79%で前回比4ポイント伸びています。前回調査に引き続き在籍者の総数が1万人を超えました。また、障害学生が在籍する一大学あたりの障害学生の数、平均38.2人であり、前回調査とほぼ同じ結果となりました。
- ・在籍する大学数の前回比では、障害別の大分類（表の網掛け部分）で見ると、「精神障害」が8ポイント「重複障害」が5ポイントとそれぞれ非常に増えました。また細かい障害分類では「ADHD」が9ポイント「ASD」が4ポイント増え、発達障害の在籍大学数の増加がみられます。
- ・在籍者数を前回調査と比較してみると、「視覚障害」「聴覚障害」「肢体障害」では在籍者数の減少がみられます。一方「発達障害」「精神障害」では在籍者数の増加がみられます。障害種別によって在籍者数の増減に明確な変化があったところは本調査の特徴でしょう。
- ・精神障害の分類を詳しくしたことで、さらに詳細なデータを今後とも取ることが可能になりました。

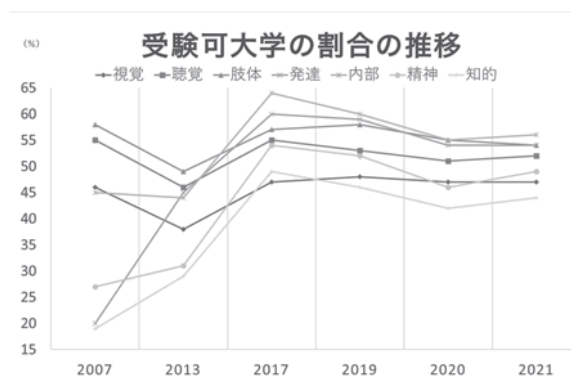
障害種別	大学(校)	率	前回比	人数	増減	平均(人)
全盲	19	5%	▲1pt	45	▽	2.4
弱視	107	28%	1pt	306	▽	2.9
視覚障害	115	30%	1pt	351	▽	3.1
全ろう	29	8%	▲2pt	51	▽	1.8
難聴	189	50%	2pt	835	▽	4.4
聴覚障害	191	50%	2pt	886	▽	4.6
盲ろう	4	1%	0pt	5	▽	1.3
電動車いす使用	74	19%	▲1pt	138	▽	1.9
手動車いす使用	74	19%	0pt	110	▽	1.5
上下肢	75	20%	▲4pt	134	▽	1.8
下肢	98	26%	0pt	153	▽	1.6
上肢	51	13%	▲2pt	81	▽	1.6
肢体障害	193	50%	1pt	616	▽	3.2
内部	186	49%	4pt	1854	▽	10.0
SLD	54	14%	2pt	89	▽	1.6
ADHD	187	49%	9pt	810	▽	4.3
ASD	194	51%	4pt	1216	▽	6.3
発達障害の重複	112	29%	3pt	426	▽	3.8
その他の発達障害	82	22%	▲6pt	288	▽	3.5
発達障害	236	62%	3pt	2829	▽	12.0
気分障害	176	46%	新	954	新	5.4
不安障害	162	43%	新	707	新	4.4
強迫性障害	68	18%	新	119	新	108
解離性障害	37	10%	新	43	新	1.2
適応障害	97	25%	新	261	新	2.7
統合失調症	107	28%	新	164	新	1.5
身体表現性障害	32	8%	新	51	新	1.6
緘黙症	26	7%	新	32	新	1.2
てんかん	125	33%	新	454	新	3.6
高次脳機能障害	30	8%	▲1pt	32	▽	1.3
精神障害の重複	66	17%	新	204		3.0
その他の精神障害	131	34%	▲18pt	636	▽	13.1
精神障害	238	62%	8pt	3657	▽	15.4
知的障害	21	6%	0pt	48	▽	2.3
重複障害	122	32%	5pt	656	▽	5.4
その他	95	25%	2pt	519	▽	5.5
種別不明	22	6%	1pt	102	▽	4.6
合計	301	79%	4pt	11523	▽	38.2

3 受験可否及び受験時の配慮状況について

◆受験可否

- ・受験可否の状況について前回との比較でみると、精神・発達障害の受験可が伸びている以外は、ほぼ横ばいでした。本調査では受験可否について顕著な動きは見られていません。
- ・障害別でみると、視覚や知的障害の受験可が他の障害に比べて少ない状況は、依然として続いています。発達・内部障害と比較してみると、10ポイント程度の開きがみられます。

障害種別	受験可否					
	可			未定		
	数	率	前回比	数	率	前回比
視覚	180	47%	0pt	201	53%	0pt
聴覚	199	52%	1pt	182	48%	▲1pt
肢体	205	54%	▲1pt	176	46%	1pt
発達	206	54%	0pt	175	46%	0pt
内部	213	56%	1pt	167	44%	▲1pt
精神	185	49%	2pt	196	51%	▲1pt
知的	167	44%	2pt	214	56%	▲2pt



◆受験可否未定理由

可否未定理由 (複数回答可)	視覚障害			聴覚障害			肢体障害			発達障害			精神障害	
	数	率	比	数	率	比	数	率	比	数	率	比	数	率
事前協議後検討	187	49%	0pt	165	43%	▲1pt	164	43%	0pt	157	41%	0pt	179	47%
統一見解なし	29	8%	0pt	25	7%	▲1pt	22	6%	0pt	31	8%	0pt	35	9%
試験ノウハウがない	17	4%	0pt	11	3%	▲1pt	15	4%	1pt	8	2%	0pt	13	3%
教職員側の態勢未整備	21	6%	▲1pt	18	5%	0pt	15	4%	0pt	9	2%	0pt	9	2%
キャンパス設備の問題	18	5%	0pt	13	3%	▲1pt	13	3%	0pt	4	1%	0pt	3	1%
合格しても受け入れられない	6	2%	▲1pt	6	2%	0pt	4	1%	0pt	2	1%	0pt	1	0%
その他	9	2%	0pt	9	2%	0pt	7	2%	0pt	5	1%	0pt	6	2%

- ・今回から精神障害の受験可否未定理由の質問が追加されました。受験可否未定の大学にその理由を尋ねてみると、どの障害でも「事前協議後に対応を検討するから」がもっとも多くなっています。障害学生が「事前協議」で受験出来るかどうか左右されるとい実態は変わっていません。
- ・さらに可否未定理由の詳細に注目すると、大学として統一した見解がまとまっていない問題や、試験の配慮に関するノウハウといった、大学が困難に感じている事柄が明確になっています。また「合格しても受け入れられない」のような事実上の受験不可ともいえる選択肢への回答が、視覚で6校、聴覚で6校、肢体で4校などとなっており、若干減りましたがこうした姿勢が残っていることは問題です。

どこがちがう？ 事前協議と事前相談

- ・事前協議は、大学が障害学生の状況を見て、入試や入学後にどこまで配慮できるかを検討したうえで、受験可否を判断します。
- ・事前相談は、大学が受験を認めたいうえで障害学生の様子を知るとともに、どのような配慮ができるかを検討するために行われます。

事前協議は障害学生の受験を認めるかどうかが決まっていな状況で行われますが、事前相談は受験を認めた上で実施されます。同じ話し合いの場ではありますが、受験が認められているのと、認められるかどうか分からないのでは、大きな違いです。

◆受験時の条件

- ・受験可否と受験時の条件の関係について見てみると、視覚・聴覚・肢体・発達のそれぞれの障害種別で、受験可と回答している大学の方が受験時の条件が決まっているという傾向が出ています。
- ・受験時条件の内容を見てみると、「事前相談」「診断書の提出」「障害者手帳コピーの提出」など受験時の配慮を決定するために必要と思われるものと、「入学後の補助者 大学は関与なし」、「入学後大学で配慮なし」など、受験時の配慮内容や入学後の障害学生の活動や配慮内容等を制約する選択肢を選ぶ大学に分けられます。
- ・視覚障害の受験時条件を見てみると「診断書の提出」が2ポイント増えてています。「活字に対応可」、「試験（の形式）変更なし」のように、受験時の配慮に関して厳しい条件をつける大学が依然として減っていないことが懸念されます。こうした条件がある大学を受験する際には、注意する必要があります。
- ・聴覚障害の受験時条件を見てみると「事前相談」が3ポイント「診断書の提出」が2ポイント増えています。聴覚障害についても「事前相談」を行う大学が増えてきていることは注目です。一方、本来入学後の情報保障を行うべき大学から、「誓約書の提出」などの条件を出されることは、聴覚障害学生にとっては辛いことです。
- ・肢体障害の受験時条件については前回比で目立った変化は見られませんでした。「入試時自分で身辺処理」及び「入学後は自分で身辺処理」といった厳しい条件に回答する大学があります。通学や学内での生活、授業でのノートテイクなど、とくに人的支援が必要な場合には、こうした条件のある大学では、事前相談で自分に必要な支援についてきちんと大学に伝えることが大切です。

視覚障害	条件あり	条件なし	条件未定	合計
受験可	142	21	17	180
可否未定	56	13	132	201
合計	198	34	149	381

聴覚障害	条件あり	条件なし	条件未定	合計
受験可	153	26	20	199
可否未定	46	13	123	182
合計	199	39	143	381

肢体障害	条件あり	条件なし	条件未定	合計
受験可	153	27	25	205
可否未定	56	9	111	176
合計	209	36	136	381

発達障害	条件あり	条件なし	条件未定	合計
受験可	133	45	28	206
可否未定	42	11	122	175
合計	175	56	150	381

視覚障害 受験時の条件	回答数	率	前回比	視覚障害 受験時の条件	回答数	率	前回比
事前相談	193	51%	1pt	通常活字に対応可	5	1%	0pt
診断書の提出	114	30%	2pt	大学は事故責任なし	3	1%	0pt
障害者手帳コピーの提出	70	18%	1pt	誓約書の提出	3	1%	0pt
活字に対応可	18	5%	0pt	入学後の補助者 大学は関与なし	3	1%	0pt
試験変更なし	13	3%	0pt	入学後大学で配慮なし	1	0%	0pt
新設備設置・購入なし	11	3%	0pt	健康診断受診	0	0%	0pt
入学後は自力通学	7	2%	0pt	解答不可能な問題の減点	0	0%	0pt
入試時自分で歩行	4	1%	0pt	その他	23	6%	▲1pt

聴覚障害 受験時の条件	回答数	率	前回比	聴覚障害 受験時の条件	回答数	率	前回比
事前相談	194	51%	3pt	大学は事故責任なし	2	1%	0pt
診断書の提出	117	31%	2pt	入学後の補助者 大学は関与なし	3	1%	0pt
障害者手帳コピーの提出	73	19%	1pt	入学後大学で配慮なし	1	0%	0pt
試験変更なし	13	3%	0pt	解答不可能な問題の減点	0	0%	0pt
新設備設置・購入なし	10	3%	0pt	健康診断受診	0	0%	0pt
誓約書の提出	4	1%	0pt	その他	23	6%	▲1pt

肢体障害 受験時の条件	回答数	率	前回比	肢体障害 受験時の条件	回答数	率	前回比
事前相談	205	54%	1pt	誓約書の提出	5	1%	0pt
診断書の提出	120	31%	1pt	入学後の補助者 大学は関与なし	5	1%	0pt
障害者手帳コピーの提出	79	21%	1pt	大学は事故責任なし	3	1%	0pt
入試時自分で身辺処理	18	5%	▲1pt	入学後大学で配慮なし	1	0%	0pt
入学後は自分で身辺処理	1	0%	0pt	解答不可能な問題の減点	0	0%	0pt
試験変更なし	12	3%	▲1pt	健康診断受診	1	0%	0pt
新設備設置・購入なし	11	3%	0pt	その他	20	5%	▲1pt

発達障害 受験時の条件	回答数	率	前回比	発達障害 受験時の条件	回答数	率	前回比
事前相談	171	45%	3pt	大学は事故責任なし	1	0%	0pt
診断書の提出	106	28%	3pt	健康診断受診	0	0%	0pt
障害者手帳コピーの提出	59	15%	2pt	解答不可能な問題の減点	0	0%	0pt
新設備設置・購入なし	8	2%	0pt	通常活字に対応可	0	0%	0pt
試験変更なし	5	1%	0pt	入学後大学で配慮なし	0	0%	0pt
入学後の補助者 大学は関与なし	2	1%	0pt				
誓約書の提出	3	1%	0pt	その他	20	5%	1pt

精神障害 受験時の条件	回答数	率	前回比	精神障害 受験時の条件	回答数	率	前回比
事前相談	143	38%	新	健康診断受診	0	0%	新
診断書の提出	95	25%	新	入学後大学で配慮なし	0	0%	新
障害者手帳コピーの提出	57	15%	新				
新設備設置・購入なし	5	1%	新				
誓約書の提出	2	1%	新				
入学後の補助者 大学は関与なし	2	1%	新				
大学は事故責任なし	1	0%	新	その他	16	4%	新

・今回初めて調査した精神障害の受験時条件では「事前相談」が143校、「診断書の提出」が95校、「障害者手帳コピーの提出」が57校でした。

・「新たな設備設置・購入なし」、「試験変更無し」、「入学後の補助者 大学は関与無し」という厳しい条件をつける大学が見られるのは残念です。

※表中の障害者手帳とは、視覚・聴覚・肢体障害については「身体障害者手帳」、発達・精神障害については「精神保健福祉手帳・療育手帳」を指します。

◆受験時の配慮

・今回初めて、精神障害の受験時配慮内容について、視覚障害などと同様の詳細な項目を設けました。

・受験時配慮の調査結果では、すべての障害で「配慮あり」が3～4ポイント減少しています。これが、コロナの影響で一時的に受験時配慮が減少しているのか、それとも今後も受験時配慮の実施が減少する傾向が続くのかは、次回調査でも注意深く確認する必要があると考えられます。

受験時の配慮	配慮あり	率	前回比
視覚障害	254	67%	▲3pt
聴覚障害	272	71%	▲3pt
肢体障害	265	70%	▲4pt
発達障害	224	59%	▲3pt
内部障害	282	74%	▲3pt
精神障害	214	56%	新質問

- ・受験時条件の有無と配慮の有無に着目すると、視覚・聴覚・肢体・発達障害を通じて「受験時条件あり」で「受験時の配慮あり」の大学が最も多くなっています。
- ・受験時に条件を付けずに、配慮を実施する大学の中には、いくつかの国公立をはじめ、配慮実績が十分にある大学が多く見られます。
- ・受験時の配慮を行うことは決めていても受験時の条件が未定な大学もあります。
- ・受験時に条件を付けてはいないが、配慮もない大学があります。医療系や音楽などの専門分野に特化した大学が多く見られます。
- ・受験するには受験可否だけに着目するのではなく、受験時の条件・配慮等を確認することが重要です。また、受験時に実力を発揮するためにも、入学後、学生生活を問題なく送れるようにするためにも大学側と事前相談を行うことが大切です。

視覚障害 受験	条件あり	条件なし	条件未定	合計
配慮あり	163	19	72	254
配慮なし	35	15	77	127
合計	198	34	149	381

聴覚障害 受験	条件あり	条件なし	条件未定	合計
配慮あり	172	26	74	272
配慮なし	27	13	69	109
合計	199	39	143	381

肢体障害 受験	条件あり	条件なし	未定	合計
配慮あり	174	23	68	265
配慮なし	35	13	68	116
合計	209	36	136	381

発達障害 受験	条件あり	条件なし	未定	合計
配慮あり	138	31	55	224
配慮なし	37	25	95	157
合計	175	56	150	381

◆受験時の配慮（各障害種別共通）

- ・ここからは受験時の配慮の詳細についてみていきます。大学には受験生から希望があったときに対応可能な方法を、複数選択で回答いただいています。全体的に配慮の実施が前回比で減る傾向にあります。

試験時間	視覚	前回比	聴覚	前回比	肢体	前回比	発達	前回比	精神
1.3倍	148	▲2pt	79	▲2pt	133	▲2pt	115	0pt	89
1.5倍	102	▲2pt	45	▲1pt	90	▲1pt	55	▲1pt	50
1.5倍以上	30	1pt	22	0pt	29	0pt	19	0pt	21
一般学生と同じ	159	▲2pt	222	▲3pt	190	▲3pt	174	▲1pt	172
その他	7	0pt	8	1pt	8	0pt	3	▲1pt	5
一般学生と同じ (時間延長なし)	85	▲1pt	178	▲3pt	117	▲3pt	102	▲6pt	116

- ・試験時間の配慮では、今回追加した精神障害を含めて一定数の大学が時間延長の配慮を実施しています。
- ・「一般学生と同じ」という選択肢は、受験生が希望したときに一般学生と一緒に試験を受けることができるということです。しかし「一般学生と同じ(時間延長なし)」の選択肢のみを選ぶことで、実質的に延長を行わない大学も一定数残っています。

試験室	視覚	前回比	聴覚	前回比	肢体	前回比	発達	前回比	精神
別室	225	▲3pt	202	▲3pt	224	▲1pt	194	0pt	183
保健室	23	0pt	22	▲1pt	26	▲1pt	16	▲1pt	19
明るすぎない試験室	56	0pt					50	▲1pt	
ループアンテナの部屋			4	0pt					
1階の部屋					192	1pt			
洋式トイレに近接の部屋					190	0pt	121	2pt	132
一般学生と同室	121	▲1pt	169	▲2pt	137	0pt	133	▲1pt	133
その他	7	1pt	10	2pt	7	0pt	6	0pt	5
一般学生と同室(同室のみ)	26	0pt	62	▲2pt	15	▲1pt	20	▲3pt	24

- ・試験室の配慮では、精神を含めて別室での受験を認める大学が最も多くなっています。しかし、前回比については視覚・聴覚の別室が3ポイント減るなど多くの項目で減少しています。
- ・試験時間と同様、「一般学生と同室」のみを選び、実質的に他の配慮を行わない大学も一定数見られるのが気になります。
- ・今回初めて調査した精神で「別室」が183校、「洋式トイレに近接の部屋」が132校でした。今後の配慮の広がりが期待されます。

◆視覚障害学生への配慮

- ・視覚障害の出題および解答方法については、拡大文字が最も多く、続いて点字となっております。
- ・点字・（マークシートの代わりに）文字による解答が拡大文字に続きますが、どれも拡大文字に比べて半数以下となっております。
- ・前回比については出題方法・解答方法ともに点字が2ポイント減るなどほとんどの項目で減少しています。
- ・対面朗読による出題、代筆や口述による解答、パソコンによる出題・解答は数も少なく、前回比もほぼ変化がありません。機器の活用や人的支援により、障害学生が自分に合った受験方法を選択できるように、これらの配慮の広がりが期待されます。
- ・受験時に何らかの配慮を行う大学が254校ある中、出題・解答で「一般学生と同じ（他の配慮なし）」の大学が出題で62校、解答で59校とあります。前回比では減少を示しているものの、障害の特性上この部分で配慮されないことは致命的であり、改善が期待されます。

視覚障害	出題方法	前回比	解答方法	前回比
点字	67	▲2pt	66	▲2pt
拡大文字	184	▲1pt	173	▲2pt
文字による解答			59	0pt
音訳			10	▲1pt
対面朗読	26	▲2pt		
パソコン	23	▲1pt		
口述			26	▲1pt
代筆			32	▲1pt
一般学生と同じ	141	▲1pt	141	▲1pt
その他	5	1pt	12	0pt
一般学生と同じ （他の配慮なし）	62	▲2pt	59	▲2pt

◆聴覚障害学生への配慮

- ・受験時に配慮ありで面接試験を実施する大学が261校ありました。詳細は、筆談による面接が最も多く、手話通訳者の同席・パソコン要約筆記者の同席がこれに続きます。情報保障者の同席を認める大学が一定数あるのは評価できますが、筆談に比べて半数以下です。また、「一般学生と同じ（他の配慮なし）」が118校あるのは残念です。
- ・大学入学共通テストのリスニングテスト評価方法について見てみると「点数配慮」が43校で、前回比が2ポイント増えています。その一方「点数減点」が19校あるのが実情です。
- ・自分の受けたい試験区分に面接試験やリスニング試験がある場合は、実力を正確に評価してもらうために、希望する配慮内容をしっかり伝えていくことが大切です。

面接試験	回答数	前回比
手話通訳者の同席	47	▲1pt
手書き要約筆記者の同席	30	▲2pt
パソコン要約筆記者の同席	27	▲2pt
筆談で面接	111	▲3pt
一般学生と同じ	173	1pt
その他	29	0pt
面接試験なし	11	▲1pt
一般学生と同じ （他の配慮なし）	118	1pt

大学入学共通テストのリスニングテスト 評価方法	回答数	前回比
点数配慮	43	2pt
点数減点	19	▲1pt
一般学生と同じ	58	▲1pt
その他	31	0pt

◆肢体障害学生への配慮

- ・肢体障害の出題および解答方法については、「拡大文字」が最も多くなっております。これは視覚障害と共通している点です。
- ・次いで「チェックによる解答」「パソコンによる解答」「代筆による解答」「口述による解答（意思伝達装置を含む）」と続きます。いずれも実施が少な

肢体障害	出題方法	前回比	回答方法	前回比
チェックによる解答			70	▲1pt
パソコン			34	0pt
拡大文字	128	0pt	133	▲2pt
口述			21	▲2pt
代筆			46	▲1pt
一般学生と同じ	206	▲4pt	193	▲3pt
その他	4	0pt	7	0pt
一般学生と同じ （他の配慮なし）	133	▲3pt	104	▲2pt

いのが現状です。

- ・特にパソコンや意思伝達装置の活用、代筆者の同席等、自分に合った出題・解答方法を選択できるよう、配慮が広がることが望めます。
- ・何らかの配慮を行う大学が265校ある中で、「一般学生と同じ（他の配慮なし）」が、前回は減っているものの、出題で133校、解答で104校に上ります。他の障害でも言えることですが、特に配慮を必要としない学生のみを受け入れるという姿勢の表れであり、こうした大学が支援を必要とする学生をまずは一人でも受け入れることで、変化していくことが期待されます。

◆発達障害学生への配慮

・発達障害では、出題・解答方法で「一般学生と同じ」のみを選び、実質的に配慮を行わない大学の数が多くなっています。受験・在籍者数が多いことから考えると、受験時の配慮の必要性そのものについて十分認知されていないといえます。

・拡大の出題・解答や、チェックによる解答はある程度実施されています。一方、パソコンの使用や補助者（代筆・口述）による解答は少ないのが現状です。

・面接時の配慮では「一般学生と同じ（他の配慮なし）」が134校と最も多くなっています。人とのコミュニケーションが苦手だったり、急な変化への対応が難しい発達障害学生にとって、面接時の配慮は本人の力を十分発揮するために必要で、この認識の広まりが急務と言えます。

・配慮内容をみると「質問の内容を文字で確認」、「質問の内容を理解しやすいように工夫」がともに48校、「個別の面接を実施」が35校と比較的実施されているようです。一方、パソコン要約筆記者や付き添い者の同席、「小論文などで代用」はまだ少ないのが現状です。

◆精神障害学生への配慮

・利用可能な事項では、「注意事項の文書での確認」がもっとも多く140校、次いで「耳栓を使用」が74校、「注意事項などを個別に説明」が71校となっています。

・面接の配慮中「面接担当者や他の学生と視線を合わせないよう座席を配慮」が29校、「個別の面接実施」が39校でした。周囲を気にせず受験できるように欠かせない配慮であり、今後の充実が望めます。

発達障害	出題方法	前回比	回答方法	前回比
文字による回答	/		34	0pt
チェックによる解答			57	1pt
パソコン	23	▲1pt	35	0pt
拡大文字	118	1pt	101	1pt
口述	/		11	▲1pt
代筆			16	▲2pt
一般学生と同じ	180	▲2pt	181	▲1pt
その他	1	▲1pt	2	▲1pt
一般学生と同じ（他の配慮なし）	103	▲2pt	102	▲3pt

発達障害	面接試験	前回比
質問の内容を文字で確認	46	▲1pt
質問の内容を理解しやすいように工夫	48	0pt
個別の面接を実施	33	▲1pt
パソコン要約筆記者の同席	8	▲1pt
付き添い者の同席	8	▲1pt
小論文などで代用	6	0pt
一般学生と同じ	187	▲2pt
その他	11	0pt
面接試験なし	11	0pt
一般学生と同じ（他の配慮なし）	134	▲1pt

精神障害	利用可能な事項
注意事項の文書での確認	140
注意事項などを個別に説明	71
パーテーションを利用	32
耳栓を使用	74
その他	9
特になし	50

精神障害	面接の配慮
質問の内容を文字で確認	48
質問の内容を理解しやすいように工夫	50
面接担当者や他の学生と視線を合わせないよう座席を配慮	29
個別の面接を実施	39
筆談で面接を実施	32
付き添い者の同席	10
小論文などで代用	4
一般学生と同じ	170
その他	11
面接試験なし	12